

# 「鍛えすぎた」女性たちへのまなざし 中国における女性ボディビルダーの参与観察

スポーツ文化 研究領域

5023A074-4 楊 俐楠(ヨウ リナン)

研究指導教員:川島 浩平 教授

## 【目的】

女子ボディビル競技の誕生からその発展に至るまで、常に矛盾が伴ってきました。筋肉量を減らし、より少ない筋肉量でファッションブルなプロジェクトを増やし、規則上で選手により多くの女性らしさを要求することに至るまで、このスポーツは一貫して矛盾と断絶を感じさせている。中国社会では、「スリムな身体」は女性の身体を規範する「美的意識」となっている。近年、そのような美的意識を拒否する女性が増え始めている。その中の一部の女性は「鍛えすぎ」と考えられ、揶揄の対象にされている。しかし、ボディビルしている女子はまだ多い。

「鍛えすぎ」と見なされる女性は、この偏見や差別をどのように理解し、対処するのか？ この研究では、女性のボディビルを通じて、現代中国の美的意識が女性の身体をどのように規制しているか、そしてこれらのボディビルの経験を持つ女性たちはこれらの美意識とどのように折り合いをつけ、あるいは抗っているのかを探求する。

## 【方法】

本研究はインタビュー調査とアンケートという 2 つの手法を主要な研究方法とする。このような質的調査方法を採用することにより、女性の主体性に焦点を当てることが可能だと考える。個々の女性の生活への質問項目などを通じ、その対象者がなぜボディビルダーとなったのか、「主流美的意識」に対する態度にも焦点を当てることが出来る。

インタビューの対象は、「四川師範大学フィットネスチーム」の 11 名の女性ボディビルダーたちである。インタビューの内容は、女性ボディビルダーのそれぞれの人生経験を知り、身体の美的意識などの問題をどのように理解しているかを把握する。女性のボディビルダーたちに対する社会の美的意識の影響、彼女たちは周りの「まなざし」をどのように見ているかということや、社会や周囲の人々のコメントや「まなざし」にどの

ように対処しているのかということである。インタビューとアンケートの他に、参与観察をする。参与観察を通じて、女性ボディビルダーの実際の生活、すなわちトレーニング、休息、競技という 3 つの異なる場面での彼女たちの様子を観察することで、研究結果はより信頼性を高めることができた。

## 【結果】

女性ボディビル選手の態度は、「反抗」「従順」という二項対立だけで説明することはできない。彼女たちは運動選手であると同時に女性でもある。運動選手としては、健康と力強い身体を追求し、伝統的規範や美意識に対する「反抗」の態度を示す。しかし、女性としては、社会的束縛や規範に縛られ、支持や理解を求めらる中で、世論の圧力に対して「従順」的な姿勢も示す。これは決して規範への屈服ではなく、自己防衛的な戦略であるといえよう。

## 【考察】

「女性ボディビル選手は伝統的な美意識に対し、従順的なのか、それとも反抗的なのか」という本研究の主要な問題を論じてきた。

第一に、女性ボディビル選手はボディビルを通じて生理的・心理的充足を得ており、自己肯定感や達成感を高めている。そのため、彼女たちはボディビルを継続するのであって、運動する身体理論の視点から言えば、必ずしも「反抗」という思想的自覚があるわけではなく、身体行動を通じて「反抗」を体現していると考えられる。第二に、ボディビル選手は異なる領域において異なる行動・態度を示す。領域ごとに異なる感知や評価がもたらされ、まったく異なる反応を引き起こす。ゆえに、彼女たちを一律に「女性ボディビル選手」として扱うことは困難である。

最後に、女性ボディビル選手たちは、反抗的な行為を示しているにもかかわらず、女性ボディビルという競技自体が社会に順応し、結果的に「主流的な美意識」に近づいていく側面がある。